

令和6年度桐生市景観講演会

「森林を軸に地域景観を見る」

桐生市では、景観行政団体になった平成25年以降、景観形成に関わる様々な取り組みを実施しており、そのひとつとして、多くの方にまちの景観を考えていただく機会となるよう、景観講演会を開催しております。

今回は、合同会社バリュー・フォレスト代表社員の武井沙織さんを講師に迎え、令和6年11月30日（土）に梅田ふるさとセンターにて講演をいただきました。武井さんは森林保全コンサルタントとして中東、アフリカなど様々な国で活動された経験があり、現在は故郷である桐生市に戻り、梅田地区において山村資源の活用とその事業化に向けた活動をしながら森林保全の取り組みも始めておられます。

講演会の関連イベントとして、講演会の周知と市の取組内容を紹介するパネル展を市役所1階市民ロビーにて11月18日～27日に実施し、市の取組とともに武井さんの活動内容を紹介するパネルや梅田地区の写真を展示しました。また、講演会当日も同様の展示を会場前のスペースで行いました。

講演会では、はじめに市から景観行政の取組みについての発表を行い、景観条例、屋外広告物条例の経緯を説明するとともに、色彩基準や屋外広告物の改善路線など具体的な制度・取組みの紹介を行いました。

市の発表後は、「森林を軸に地域景観を見る」とのテーマで、武井さんにお話しをいただきました。

前半は武井さんが森林保全に携わっていたニカラグア、マラウイ、イラン、モンゴルでの活動について、後半は桐生市の梅田地区での活動や地域の歴史について、動画やスライドを交えて紹介いただきました。

世界の国々の話は大変興味深く、人々の生活改善を含めた意識改革など、森林保全のための様々な苦労を知ることができました。また、梅田地区についても新鮮な話が多く、水晶が採取できることなど、梅田地区の新たな魅力につながるお話を聞くことができました。

武井さんは変わっていくものと維持していくものがあることを意識して活動されているとのことでしたが、中でも印象的だったのは、維持していくように努めなければ森林や茶畑の風景は作られないという言葉でした。市全体の景観づくりにも共通する姿勢として、参加者の皆さんに意識していただけたものと思います。



武井 沙織さん
(合同会社バリュー・フォレスト
代表社員)



パネル展の様子



講演会の様子